安全な水をお届けするために

―水道料金改定のお知らせ

市は、27年度から29年度までの3年間の水道料金を、現行から平均5・2％引き上げることとしました。ことし4月の検針分から改定後の料金が適用されます。私たちの生活に欠かせない水と水道事業を取り巻く状況、そして今回の水道料金改定についてお知らせします。

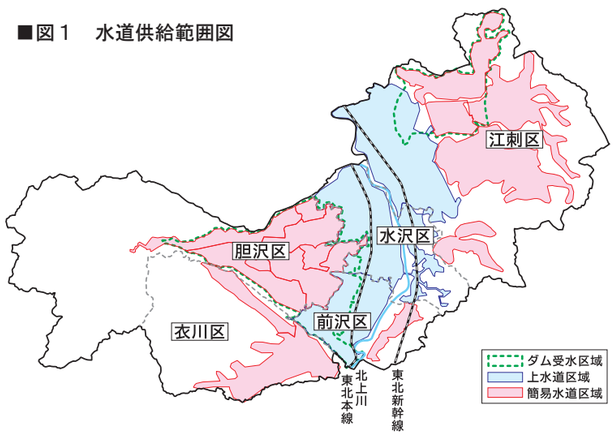
■問い合わせ＝水道部経営課（☎㊻4904）

市水道事業の歴史

本市の水道事業は、旧市町村の水道事業を引き継いで実施しています。その歴史は古く、昭和元年に旧江刺市水道事業が一日最大給水量400立方㍍、給水人口5千人で創設されました。次いで26年旧水沢市、36年旧前沢町と続き、42年旧衣川村、43年旧胆沢町と40年代初めまでに全ての水道事業を開始。高度経済成長と共に急速に普及が進みました。

その後、簡易水道事業との統合や給水区域の拡張を図りながら、水の品質向上と安定供給に取り組み、25年度末時点の一日最大配水量は4万5562立方㍍、給水人口は11万1618人に及びます（図1）。

■図1　水道供給範囲図



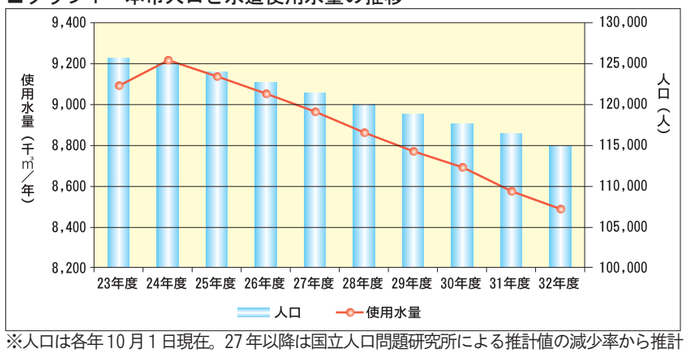
市水道事業を取り巻く状況の変化

本市の人口は平成7年をピークに年々減少しており、23年に12万5623人だった人口は、26年に12万2566人と3年間で約3千人減少。32年には11万5067人になると推計されています。

人口に比例するように使用水量も減少していますが、この背景には人口減少のほか、少子高齢化の進行や家電製品など節水機器の普及、家庭での節水行動の定着化などがあると考えられます。このような水需要の低下に伴い、今後も使用水量と料金収入は減少していくと見込んでいます（グラフ1）。

使用水量は減少していますが、核家族化や単身世帯の増加により、水道を利用する世帯や地域は微増しています。また、水道施設には消火栓などの消防用設備もあり、防災の面からも水道管などの施設を急激に減らすことはできません。

■グラフ1　本市人口と水道使用水量の推移



※人口は各年10月1日現在。27年以降は国立人口問題研究所による推計値の減少率から推計

広域受水と老朽化する水道施設への対応

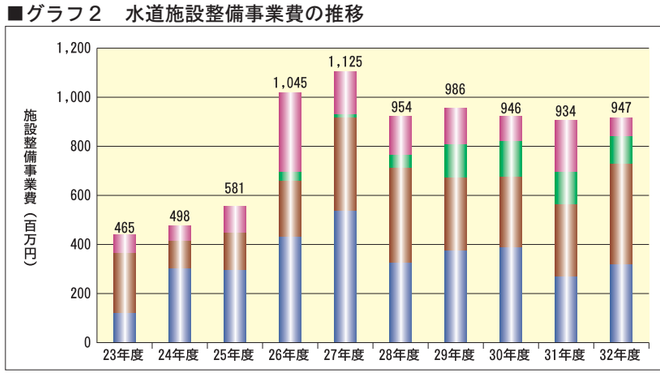
胆沢ダムを水源とする胆江広域水道用水の本格受水が26年から始まり、今後は受水のための施設を整備しながら老朽化した水源を廃止し、効率的な切り替えを行っていく必要があります。また、本市の水道施設は昭和45年から急速に整備が図られたもので、その多くが耐用年数（40年）を迎えるため、老朽化した施設の更新も喫緊の課題です。さらに、岩手・宮城内陸地震と東日本大震災を契機に、地震などの災害に備えた施設の耐震化も重要になっています。

市内を走る直径50㍉以上の水道管の総延長は約720㌔㍍に上り、このうち170㌔㍍で更新が必要。これらが破裂や断水などしないよう、耐震対策も含んで今後10年間で80㌔㍍の更新工事を実施する計画です。

安心・安全な水を安定して供給するためには、これらの施設や管路の整備を計画的に進める必要があり、施設事業費の増加が見込まれています（グラフ2）。

【老朽管更新工事：新たに耐震管を布設する作業員】

■グラフ2　水道施設整備事業費の推移



施設更新改良事業	施設の機器類の定期更新
施設耐震化事業	重要な水道供給施設や基幹経路、災害時の重要拠点施設への配水管路の耐震工事
老朽施設更新事業	老朽化による施設の更新
広域化促進事業	胆沢ダムからの受水に対応するための施設設備と統廃合